

臭化チキジウム 20 mg/g 顆粒

溶出試験 本品約 0.5g を精密に量り，試験液に水 900 mL を用い，溶出試験法第 2 法により，毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験開始 90 分後，溶出液 20mL 以上をとり，孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き，次のろ液 3mL を正確に量り，水 3mL を正確に加えて試料溶液とする。別に臭化チキジウム標準品を 105 度で 4 時間乾燥し，その約 0.028g を精密に量り，水に溶かし，正確に 100 mL とする。この液 2 mL を正確に量り，水を加えて正確に 100 mL とし，標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 μ L ずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い，チキジウムのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

本品の 90 分間の溶出率が 80% 以上のときは適合とする。

臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= \frac{W_S}{W_T} \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 36$$

W_S : 臭化チキジウム標準品の量 (mg)

W_T : 臭化チキジウム顆粒の秤取量 (g)

C : 1g 中の臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量 (mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計 (測定波長：247nm)

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：30 度付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸 (3 : 1000) / アセトニトリル混液 (3 : 2)

流量：チキジウムの保持時間が約 4 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 20 μ L につき，上記の条件で操作するとき，チキジウムのピークの理論段数及びシンメトリー係数はそれぞれ 3000 段以上，2.0 以下である。

システムの再現性：標準溶液 20 μ L につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，チキジウムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である。

臭化チキジウム標準品 日本薬局方外医薬品規格「臭化チキジウム」。ただし，乾燥したものを定量するとき，臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) 99.0% 以上を含むもの。

臭化チキジウム 5 mg カプセル

溶出試験 本品 1 個をとり，試験液に水 900 mL を用い，溶出試験法第 2 法（ただし，シンカーを用いる）により，毎分 50 回転で試験を行う．溶出試験開始 30 分後，溶出液 20mL 以上をとり，孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する．初めのろ液 10mL を除き，次のろ液を試料溶液とする．別に臭化チキジウム標準品を 105 で 4 時間乾燥し，その約 0.028g を精密に量り，水に溶かし，正確に 100 mL とする．この液 2 mL を正確に量り，水を加えて正確に 100 mL とし，標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液 20 μ L ずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い，チキジウムのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する．

本品の 30 分間の溶出率が 85% 以上のときは適合とする．

臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= W_S \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 18$$

W_S : 臭化チキジウム標準品の量 (mg)

C : 1 カプセル中の臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量 (mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：247nm）

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする．

カラム温度：30 付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸（3 1000）/アセトニトリル混液（3：2）

流量：チキジウムの保持時間が約 4 分になるように調整する．

システム適合性

システムの性能：標準溶液 20 μ L につき，上記の条件で操作するとき，チキジウムのピークの理論段数及びシンメトリー係数はそれぞれ 3000 段以上，2.0 以下である．

システムの再現性：標準溶液 20 μ L につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，チキジウムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である．

臭化チキジウム標準品 日本薬局方外医薬品規格「臭化チキジウム」．ただし，乾燥したものを定量するとき，臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) 99.0% 以上を含むもの．

臭化チキジウム 10 mg カプセル

溶出試験 本品 1 個をとり、試験液に水 900 mL を用い、溶出試験法第 2 法（ただし、シンカーを用いる）により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験開始 30 分後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液 3mL を正確に量り、水 3mL を正確に加えて試料溶液とする。別に臭化チキジウム標準品を 105 で 4 時間乾燥し、その約 0.028g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100 mL とする。この液 2 mL を正確に量り、水を加えて正確に 100 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 20 μ L ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、チキジウムのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

本品の 30 分間の溶出率が 80% 以上のときは適合とする。

臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= W_s \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 36$$

W_s : 臭化チキジウム標準品の量 (mg)

C : 1 カプセル中の臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) の表示量 (mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：247nm）

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：30 付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸（3 1000）/アセトニトリル混液（3：2）

流量：チキジウムの保持時間が約 4 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 20 μ L につき、上記の条件で操作するとき、チキジウムのピークの理論段数及びシンメトリー係数はそれぞれ 3000 段以上、2.0 以下である。

システムの再現性：標準溶液 20 μ L につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、チキジウムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である。

臭化チキジウム標準品 日本薬局方外医薬品規格「臭化チキジウム」。ただし、乾燥したものを定量するとき、臭化チキジウム ($C_{19}H_{24}BrNS_2$) 99.0% 以上を含むもの。